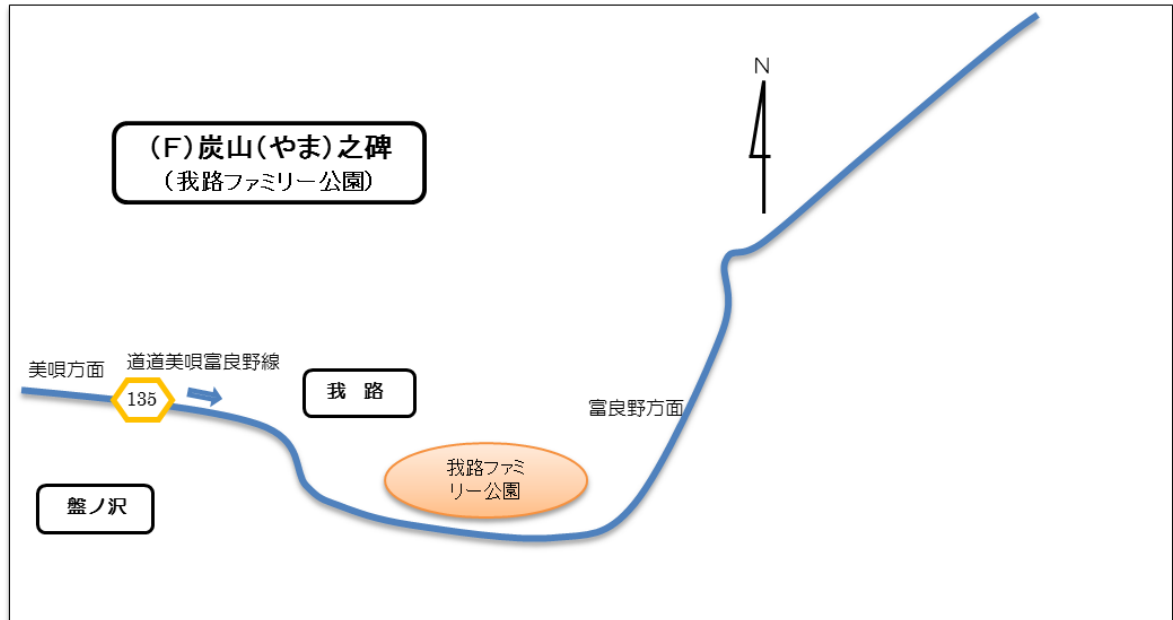


3 アルテピアッツァ美唄 安田侃の世界



(1) アルテピアッツァ美唄 (旧栄小学校)



《概要》

同校は三菱が建築し、三菱地区最後に開校、同地区として最後に閉校した小学校。多いときで、1200人を超える児童がいました。市内唯一の市立幼稚園も開設。

○旧栄小学校校歌

		栄小学校校歌	
		作詞	更科 源臈
		作曲	筒井 秀武
一	緑の山に	いだかれて	
	大石狩を	望むとこ	
	愛と平和に	育まれ	
	夢も大なり	栄校	
二	山底深く	理もる火と	
	心に眠る	地の泉	
	深く探りて	掘り進み	
	明るく伸びる	栄校	
三	風にもそよぐ	若草の	
	まなびの庭に	おい立ち	
	世界の声に	立ちあがり	
	清く華咲く	栄校	
四	あしたに清き	光あり	
	雲の斜面に	鍛えつつ	
	強くおしく	たくましく	
	風雪めげぬ	栄校	

アルテピアッツァ美唄は、1981（昭和56）年に閉校となった、主に炭鉱従業員の子弟が通学した旧栄小学校の跡地を利用しています。イタリアで創作活動続ける美唄出身の世界的彫刻家安田侃氏が、日本でアトリエを探していた際、旧栄小学校に出会い、校舎の一部に併設されていた市立栄幼稚園に通う子どもの姿を見て「この子どもたちが、心をひろげられる広場をつくろう」と思ったことが、アルテピアッツァ美唄誕生のきっかけとなりました。

アルテピアッツァは、イタリア語で芸術広場の意味。今なお創り続けられています。現在、約7万平方メートルの敷地に安田侃の大理石やブロンズの作品が40点余りが展示されています。炭鉱住宅街跡に再生された木々茂る山々や清流に囲まれた空間では、四季の移り変わりを満喫できます。

木造2階建ての旧小学校校舎は数十年前の標準的建築様式で、地域の人々のみならず訪問者の郷愁を誘います。2階はギャラリーとして使用されていますが、1階は市立栄幼稚園として使用され、彫刻と将来を担う子どもたちが共存しています。元体育館や丘のふもと大理石のステージはコンサートや舞踊、講演会場ともなり、ギャラリーでは様々な展覧会が開かれます。

《沿革》

- 平成 3（1991）年 旧栄小学校の体育館をアトスペースに改修。
平成 4（1992）年7月 野外スペースを整備し、アルテピアッツァ美唄としてオープン。「真無」「吹雪」など5作品を野外に展示。11月、アトスペースで初めての演奏会を開催。
平成 9（1997）年 水の広場開設。「天聖」「天モク」などを設置。
平成10（1998）年 旧栄小学校の校舎改修。
平成11（1999）年 旧栄小学校2階にギャラリーを開設。
平成13（2001）年10月 北海道が創設した「北のまちづくり賞」知事賞受賞。
平成14（2002）年 5月 安田侃さんが「第十五回村野藤吾賞」受賞。受賞対象作品が「アルテピアッツァ美唄」。
平成15（2003）年7月 天皇皇后両陛下、アルテピアッツァ美唄を行幸啓。
平成18（2006）年4月 指定管理者制度により、NPO法人アルテピアッツァびばいが管理運営を開始。
平成19（2007）年4月 ス튜디오アルテ、カフェアルテがオープン。以降、 스튜디오アルテでは、毎月、こころを彫る授業を開催。
平成21（2009）年10月 NPO法人アルテピアッツァびばいが北海道新聞社「第8回北のみらい奨励賞」受賞。
平成22（2010）年1月 NPO法人アルテピアッツァびばいが「地域づくり総務大臣表彰」受賞。6月 音の広場に「真無」を設置。
平成23（2011）年10月 「じん肺根絶の碑」を設置。
平成24（2012）年7月 20周年記念安田侃作品展「触れる」を開催。
平成25（2012）年2月 NPO法人アルテピアッツァびばいが「北海道地域文化選奨」及び「共同通信社第3回地域再生大賞優秀賞」受賞

《安田侃プロフィール》

安田 侃（彫刻家）

1945（昭和20）年美唄市生まれ。東京芸術大学大学院彫刻科終了後1970（昭和45）年イタリア政府招へい留学生としてイタリアに渡り、ローマ・アカデミア美術学校でペリクレ・ファッツィーニ氏に師事。イタリアのピエトラサンタにアトリエを構え、創作活動を続けています。



安田 侃作 じん肺根絶の碑



アルテピアッツァ美唄ギャラリー（木造校舎2階）

《じん肺根絶の碑》

北海道内の炭鉱や金属鉱山で働き、じん肺になったとして国や企業を相手に訴訟を起こした原告団と弁護団が、安田侃氏に制作を依頼し、2011年にアルテピアッツァ美唄内に設置されました。今もトンネル工事やアスベスト工事などでじん肺患者が発生し続けていることから、じん肺根絶を誓い、多くの労働者がじん肺で亡くなった歴史を後世に伝えようというものです。「胸いっぱい息を吸ってほしい」との願いが込められたホワイトブロンズ製の彫刻です。

《案内》

所在地 : 072-0831 美唄市落合町栄町

開館時間 : 水曜日～月曜日 午前9時～午後5時

入館料 : 無料

閉館日 : 毎週火曜日、祝日の翌日（日曜日は除く）
年末年始（12月31日～1月5日）

アクセス : 公共交通

JR函館本線利用で札幌より35分、

千歳空港より75分

美唄駅下車、市民バス「アルテピアッツァ美唄」行き約20分
車

道央自動車道「美唄IC」→道道135号美唄富良野線を我路方面へ
美唄ICから約5分

駐車場 : 無料駐車場あり

トイレ : あり

問い合わせ先 : NPO法人アルテピアッツァびばい

電話（代表） : 0126-63-3137

(2) 炭山（やま）の碑（我路ファミリー公園内）



安田 侃作 炭山（やま）の碑

《概要》

「炭山（やま）之碑」、美唄市が地元出身の世界的彫刻家・安田侃氏に依頼し我路ファミリー公園に1980（昭和55）年に建てられた彫刻です。

現在も多くの事故の犠牲になった方々が地底に眠っています。

地底に眠る方々の魂に空気を送り込むため、御霊を山から吸い上げて家族のもとへ返すために、高さ7mあり、柱の先が三方を向いています。

三菱美唄炭鉱の炭住街の中心だったこの公園には、炭鉱で亡くなった人への鎮魂の碑である「炭山（やま）之碑」が静かに佇んでいます。

「炭山の碑」

美唄の炭坑は閉じ、

多くの坑夫は散りぢりに山を去った。

石炭（すみ）を掘り、盆踊りのにぎわいも楽しく、

それぞれに忘れ得ぬ人生のなりわいがあった。

時代は過ぎ去り、人々は役割を終えて、

もう誰もいない。

ただ、静かに地底に眠り、歴史を話しかける

炭山だけが生きている。

（我路ファミリー公園「炭山の碑」碑文より）

○我路ファミリー公園について

1973（昭和48）年に廃校になった沼東中学校のグラウンド跡につくられました。この敷地周辺は三菱美唄炭鉱鉄道の「美唄炭山駅」のあった地域です。

公園の全敷地面積は5万6000㎡と広く、敷地内には三菱美唄炭鉱の歴史を伝える三菱美唄記念館や、慰霊碑があります。

その他、16種類のアスレチックが楽しめる「ファミリー広場」、自生樹木やサトウカエデの森などがある自然豊かな「我路ファミリー公園キャンプ場」があります。森林浴やバードウォッチングなども楽しめます。

我路ファミリー公園の向かいには美唄国設スキー場レストハウス（旧沼東中学校屋内体育館）があります。

○公園内にある三菱関連の慰霊碑

- ・ 弔魂碑 1929（昭和 4）年建立
- ・ 慰霊塔 1977（昭和52）年建立



いずれも、1979（昭和54）年に、我路ファミリー公園に移設されました。

《参 考》

昭和57年、我路ファミリー公園近くの大円寺という寺院から、朝鮮人と中国人労働者473名の出身地、実名、命日が書かれた過去帳が見つかり、三菱美唄常盤出身の歴史家森山軍治郎氏をはじめ、多くの美唄市民が慰霊碑建立に動き、昭和60年、韓国の天安市の「国立墓地望郷の丘」の一角に、「静江廟」が建てられました。式典には当時の滝正市長をはじめ多くの市民が参加し、僧侶の元市議会議長谷口得章氏が団長を務めた。

（出典：「安田侃の芸術広場 アルテピアッツァ美唄」北海道新聞社）

《案 内》

- ・ 所 在 地：072-0000 美唄市東美唄町
- ・ アクセス：車
道央自動車道「美唄IC」→道道135号美唄富良野線を我路方面へ
美唄ICから約10分
- ・ 駐 車 場：無料駐車場あり
- ・ ト イ レ：公園内の三菱美唄記念館内にあり（冬期休館日 11～4月）
（休館日 毎週月、火曜日）
- ・ 問い合わせ先：美唄市役所 都市整備部都市整備課
電話（代表）：0126-62-3131
ファックス：0126-62-1088